

進路指導部

部長：三宅正洋

副部長：白井啓子

(1) 今年度の目標

生徒一人ひとりが志を持ち活力ある自立した個人として育っていけるよう、自ら調べ、考え模索する「進路学習」を促し、支え、進めさせる。各学年の重点目標は以下の通り。

- (1年) 自分の将来について考える
- (2年) 自分の適性や資質を探り、高める
- (3年) 進路志望の実現に向けて自分を磨く

(2) 主な取り組みの計画

- ① 「進路HR」（1年生では総合学習の時間（TP）も含む）を通して、職業や、学部・学科について考えさせる。また、大学・学部等の情報を得る機会として、大学入試のシステムを調べさせたり受験の心構えを伝えたりする。
- ② 「進路の手引き」を活用し、自分の現状を確認しながら進路について考えさせる。
- ③ 「面接」をととして、生徒が主体的に進路を決定していけるようにサポートする。また、「生活時間調査」をととして、自主的な学習状況を見直させる。
- ④ 「進路・コース選択説明会」「進路説明会」の実施、「進路だより」の発行などを通して情報を的確に伝え、進路意識を高めさせる。また、3学期終業式後、3年生が受験体験を1，2年生に話す機会を設け、身近な手本やモデルとしてとらえることで大学入試への意識を高めさせる。
- ⑤ 「キャンパスツアー」「大学・研究室体験」「eラーニング」等の実施により、大学や研究の現状を知り体験させる。
- ⑥ 学年団会、学習模試検討会、進路指導研修会、線引き会、「進路指導シラバス」等を生かし、教員が情報の共有を図るとともに進路指導力の向上に努める。

(3) 成 果

- ・夏の東京方面、京都大学、大阪大学へのキャンパスツアー参加者が大幅に増え、1，2年生の進路意識の高まりを実感した。
- ・1年団では面接カード活用や難関大セミナーを新しく計画したり、2年団では0学期宣言を前に進路HRを増やしたり、内容を工夫したりと、生徒の進路意識を高める新しい取り組みを行えた。その成果は数字に少しずつ現われ始めている。3年団においても、校外の教育団体とさらに連携をとる機会を増やして、指導の充実を図れた。
- ・全学年団において、こまめな個人面接を通して、悩みを聞いたり、生徒のやる気を高められたりできている。
- ・各教科が、基礎力の向上を図る取り組みをさらに充実させようと努力できた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・行事を踏襲したり、資料を作成、配布したりすることに大きな労力と時間を費やすこともあり、さらに作業内容、組織や役割の偏りの整理を図りたい。そして、生徒にとって効果的な指導を、余裕を持って考え、実行できる環境を作りたい。
- ・新しいことを始めたら、それに代わる何かを整理、削減しなければ、教員の負担は増えるばかりであるから、生徒に効果的な指導を実行できなくなる。現状に合う行事、資料は何かを見極め、検討、整理したい。